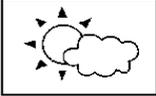


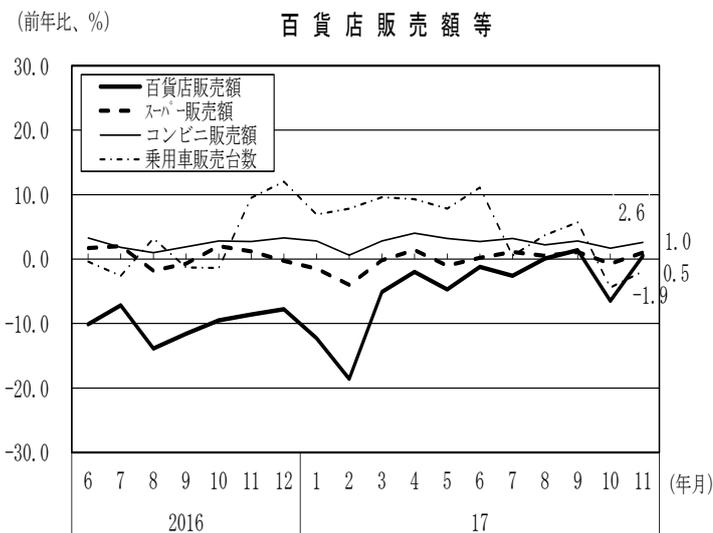
●最近の県内経済

基調判断
(2017年11月を中心として)



今月の概要
県内景気は緩やかに回復している。

1 個人消費 持ち直し

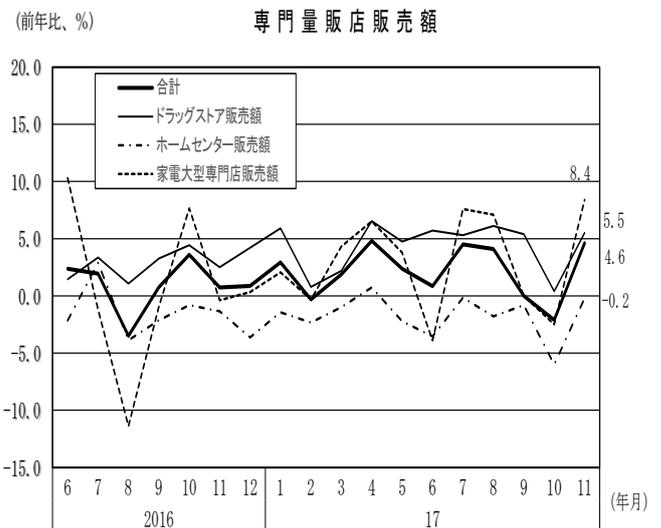


(注)百貨店及びスーパーは全店舗ベース。コンビニ販売は2016年6月分までは関東経済産業局管内の数値で、2016年7月分より埼玉県の数値を掲載しているため、2016年6月以前と7月以降の数値は連続していない。

(資料)経済産業省、埼玉県自動車販売店協会など

11月の百貨店・スーパー販売額(店舗調整前)は、冬物衣料の動きが良くなり、866億円で前年比0.9%増加した。百貨店は同0.5%、スーパーは同1.0%と、ともに増加した。コンビニ販売は、麺類や中華まんなどの日配食品が堅調で、同2.6%と増加を続けている。

乗用車販売(軽含む)は、同1.9%減と2か月連続で減少した。内訳をみると、軽乗用車が引き続き増加したものの、普通車、小型車が減少した。

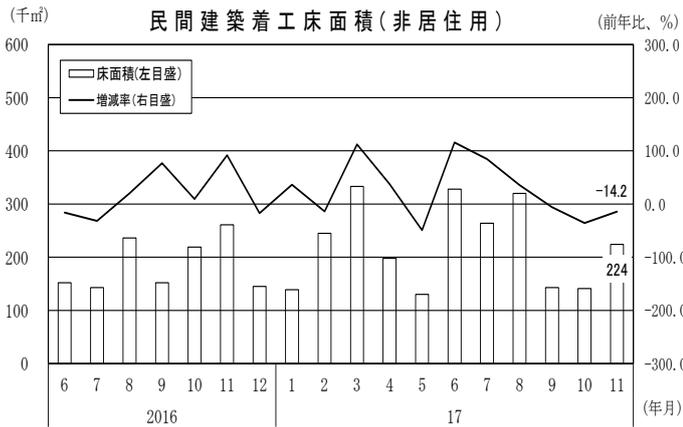


(資料)経済産業省

11月の専門量販店販売額は、617億円で同4.6%増加した。

内訳をみると、ホームセンターは、164億円で同0.2%減と7か月連続減少したもの、家電大型専門店は、生活家電、情報家電などを中心に、148億円で同8.4%増加し、ドラッグストアは、305億円で同5.5%増と引き続き増加している。

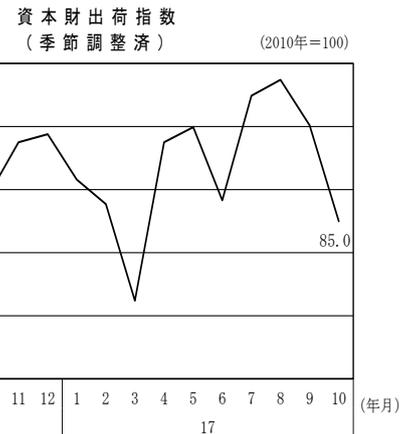
2 設備投資 増加基調



(資料)国土交通省

11月の民間建築着工床面積(非居住用)は、224千㎡で前年比14.2%減少したが、11月までの年度累計で前年同期比11.8%増加した。

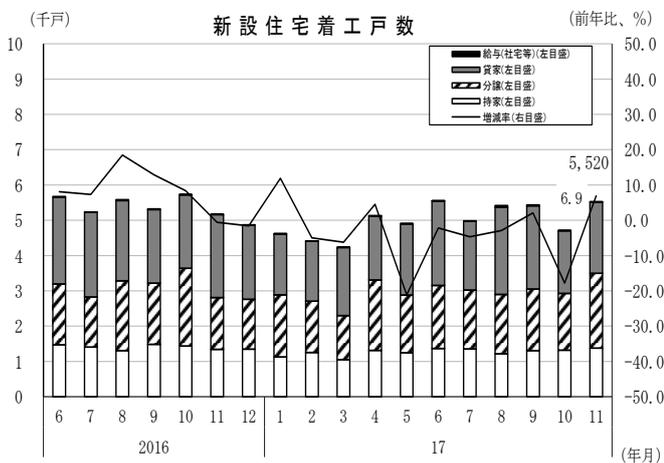
11月単月を用途別でみると、倉庫、病院・診療所で前年を下回った一方、工場及び作業場、店舗、学校の校舎などで前年を上回った。



(資料)埼玉県

10月の資本財出荷指数(季節調整済)は、85.0で2か月連続で低下した。

3 住宅建設 弱含み

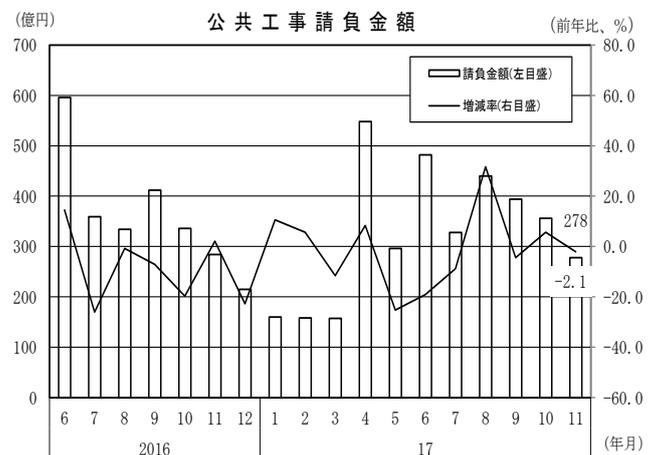


(資料)国土交通省

11月の新設住宅着工戸数は、5,520戸で前年比6.9%増加したが、11月までの年度累計で前年同期比5.0%減少した。

11月単月を利用関係別にみると、貸家は2,019戸で同14.3%減と2か月連続で減少したものの、持家は1,376戸で同2.5%増加した。分譲住宅は、戸建てが1,363戸で同14.0%増加し、マンションが729戸で同174.1%増加した。

4 公共工事 足元減少

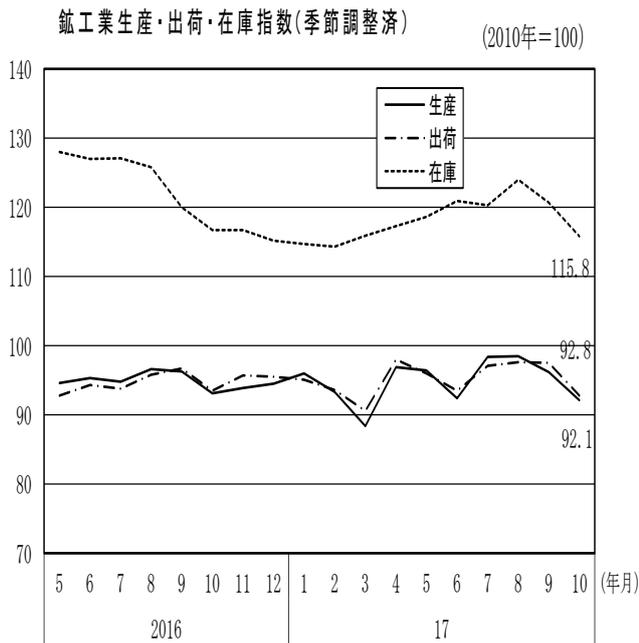


(資料)東日本建設業保証株式会社

11月の公共工事請負額は、278億円で前年比2.1%減少した。

発注者別でみると、国、独立行政法人等、市町村の発注が増加したが、県などの発注が大幅に減少した。

5 生産活動 足元低下

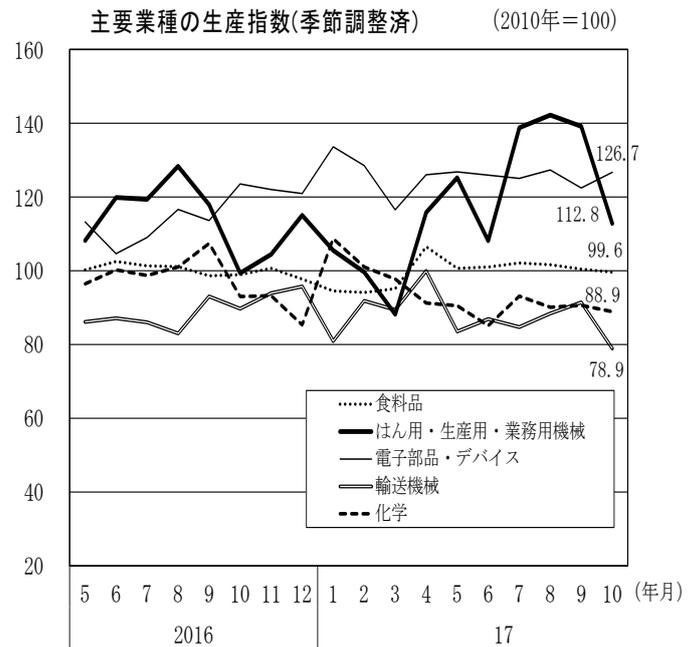


(資料)埼玉県

10月の生産指数(季節調整済)は、92.1で前月比4.3%低下した。全23業種中、はん用機械、電子部品・デバイス、情報通信機械など8業種が上昇したが、業務用機械、生産用機械、輸送用機械など15業種が低下した。

出荷指数(同)は、92.8で同4.8%低下した。全23業種中、電子部品・デバイス、情報通信機械など7業種が上昇したが、業務用機械、生産用機械、輸送用機械など16業種が低下した。

在庫指数(同)は、115.8と同4.1%低下した。全20業種中、電気機械、プラスチック製品など14業種が上昇したが、輸送用機械、電子部品・デバイスなど6業種が低下した。



(資料)埼玉県

◆食料品：10月の生産指数(季節調整済)は、99.6と前月比0.8%低下したが、100近辺の水準で推移している。

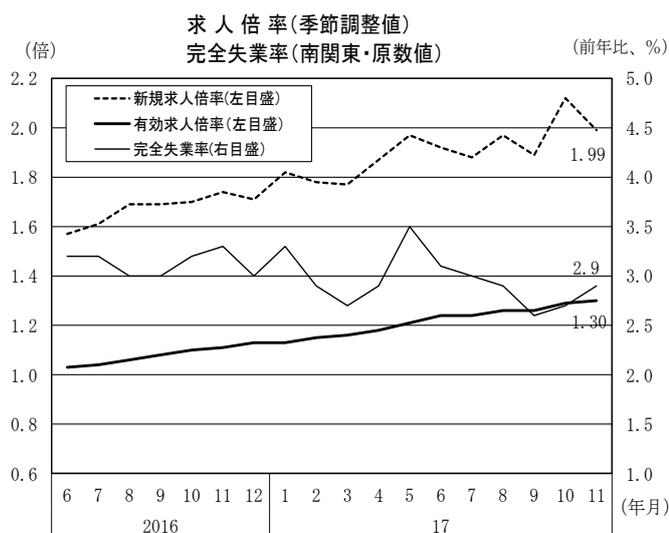
◆電子部品・デバイス：10月(同)は、126.7と同3.5%上昇した。

◆はん用・生産用・業務用機械：10月(同)は、112.8と同18.9%低下した。はん用機械が上昇したものの、生産用機械と業務用機械が低下した。

◆輸送用機械：10月(同)は、78.9と同13.7%低下した。乗用車や自動車エンジン等が低下した。

◆化学：10月(同)は、88.9で同1.9%低下した。合成樹脂塗料などが低下した。

6 雇用情勢 着実に改善



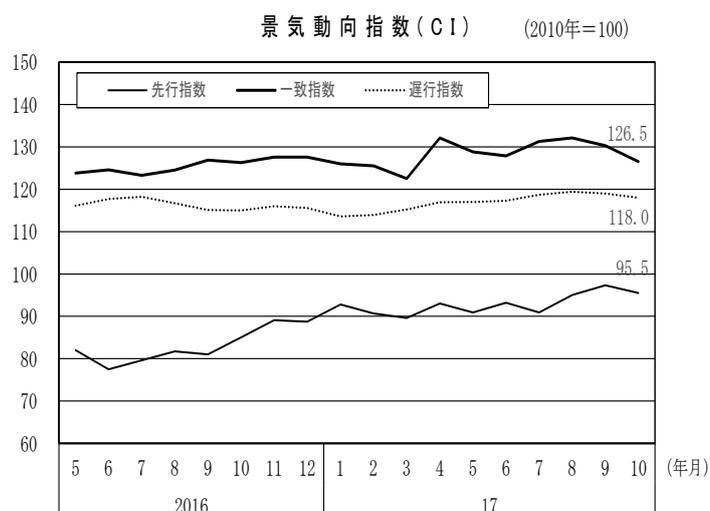
(資料)厚生労働省、総務省

11月の新規求人倍率(季調済)は、1.99倍で前月比0.13ポイント低下した。有効求人倍率(同)は、1.30倍で同0.01ポイント上昇した。

また、完全失業率(南関東、原数値)は、2.9%と同0.2ポイント悪化したが、低水準で推移している。

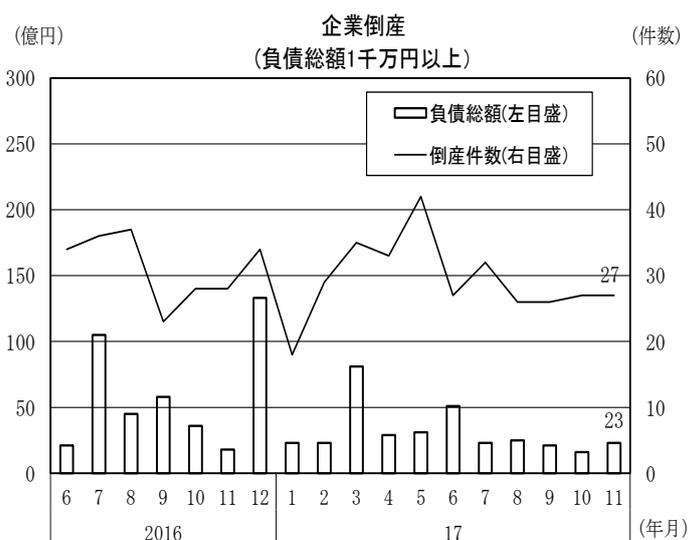
〈参考〉

景気動向指数(CI)：改善を示している



(資料)埼玉県

7 企業倒産 件数は減少



(資料)帝国データバンク

11月の倒産件数は、27件で前年同月比1件減少した。一方、負債総額は、23億円で同5億円増加した。

業種別にみると、建設業が8件、構成比29.6%で最も多く、次いで製造業と小売業が各々5件、卸売業とサービス業が各々4件となっている。

要因別では、販売不振が24件(構成比88.9%)で最も多くなっている。

10月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、126.5で前月比3.8ポイントと2か月連続で低下したが、改善基調に変わりはない。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、95.5で前月比1.8ポイントと3か月振りに低下したが、改善基調にある。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、118.0で同1.0ポイントと2か月連続で低下したが、改善基調に変わりはない。